

AJE 継承語 SIG 「ヨーロッパ継承日本語ネットワーク」

— 2023 年度活動報告（2023 年 8 月～2024 年 7 月） —

フックス - 清水 美千代（スイス・バーゼル日本語学校）

板倉 法香（スペイン・公立語学学校アリカンテ校）

齋藤 あずさ（イタリア・文化協会にほんごもっと）

根元 佐和子（フランス・パリ南日本語補習校）

三輪 聖（ドイツ・テュービンゲン大学）

若井 誠二（ハンガリー・カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学）

要旨

AJE SIG「欧州継承日本語ネットワーク」（以下、AJE 継承語 SIG）は、海外で日本語を学ぶ子どもたちへの継承日本語教育のより良き発展を目指して活動している。2023 年度の主な活動は、国際交流基金の招聘による国際会議、継承日本語教育に関する講演・ワークショップ開催、データベースの構築、LSA 勉強会の継続、情報共有活動などがある。特に、4 月に開催されたトランス・ランゲージングをテーマとした講演では、その理論とともに実践的手法が紹介され、参加者から高評価を得た。今後も継承日本語教育に関する情報発信、セミナー開催、他機関との協力などを通じて、ネットワークのさらなる拡大と実践的な支援を目指し、活動を継続していく。

【キーワード】 継承日本語教育， 継承日本語ネットワーク， 活動報告

Keywords: Heritage Japanese language education, Heritage Japanese language network, Activity report

1 AJE 継承語 SIG の目的

継承日本語教育は、親が日本語話者である子どもたちの海外での日本語学習を支援する教育であり、日本語教育の中でも新しい分野といえる。継承日本語を教える多くの機関は公的な支援もなく、継承語に関する知識も乏しく、欧州各地で孤軍奮闘しているのが現状である。

AJE 継承語 SIG の活動の目的は、欧州ワイドのネットワークを確立し、継承日本語教育に関する知識や情報を共有できる場を作ることであり、そのネットワークを通して欧州での継承日本語教育のより良い発展のための活動を行う。またそのような活動が欧州から世界中の継承日本語関係者への発信となると考えている。

具体的には、以下の活動を行っている。

- 継承日本語教育に関する情報の収集と共有
- 教育現場での実践例の紹介と共有
- 継承日本語教育に関する研究の推進
- 教育者・運営者・保護者・学習者同士の交流と支援

2 過去 1 年間の活動概要

2.1 AJE 継承語 SIG 会議

AJE 継承語 SIG では、2020 年 9 月に第 1 回会議を開催して以来、運営メンバーによる定期的な会議を実施している。2024 年 7 月には第 41 回目の会議を行い、メンバー間の情報交換や活動報告、今後の課題などについて議論を行った。毎回の会議では、それぞれのメンバーの活動の報告をはじめ、AJE 継承語 SIG の企画及び運営についての話し合いや企画終了後の振り返りなどが行われている。

2.2 ヨーロッパ日本語教育シンポジウムでの報告発表

2023 年 8 月、ベルギーのアントワープで開催された「第 26 回ヨーロッパ日

本語教育シンポジウム」において、継承語 SIG の活動報告を行った。この報告のセッションにおいて、欧州における継承日本語教育の現状や課題について議論が行われ、その結果シンポジウム全体を通し、参加者同士のネットワーキングを促進する場となった。

2.3 国際交流基金との連携

2023年12月、継承語 SIG のメンバーが国際交流基金の招聘を受け、埼玉県浦和にある国際交流基金日本語国際センターで開催された会議に参加した。この会議では、世界各国から招聘された継承日本語教育関係者がそれぞれの国や地域の継承日本語教育に関する情報交換を行い、世界ワイドの継承日本語教育の実態を共有した。各国の継承日本語教育に関する現状を把握し、今後の継承日本語教育における課題について話し合うことにより、多くの知識を得ることができた。最終日には、国際交流基金本部の方々をはじめ、文科省及び外務省の方々や日本語教育関係者のご参加のある中、今後の継承日本語教育におけるさまざまな課題についての発表と議論が行われた。

2.4 講演とワークショップ

2024年2月25日、国際交流基金ロンドン文化センターの助成を受け、講師に國學院大学教育開発推進機構の加納なおみ教授を招き、「トランス・ランゲージングと継承日本語教育」をテーマに講演とワークショップを開催した。同イベントには56名が参加し、複言語・複文化の理念に基づく教育実践について学んだ。このイベントは、参加者にとってトランスランゲージングの理論を実践にどう生かすかを考える良い機会となった。事後アンケートの結果、参加者の9割がプログラムの運営や内容に満足していることがわかった。特に、トランス・ランゲージングについての具体的な事例や教育現場での実践方法が理解できたことが評価され、教室活動への具体的な応用や実践例についてのさらなる情報を求める声も多く寄せられた。

2.5 メーリングリストによる情報交換

2021年4月に立ち上げられたメーリングリストを通じて、継承日本語教育に関する情報交換が行われた。メーリングリストに登録しているメンバーの間での迅速な情報共有ツールとして教育現場での実践に役立つ情報が提供されている。

2.6 LSA（ライフ・ストーリー・アプローチ）勉強会

LSA 勉強会は毎週金曜日に開催されており、継承日本語教育に関する理論や実践について学ぶ機会を提供している。この勉強会では、継承語教育に関する書物を輪読していく過程で、参加者による意見交換が盛んに行われ、継承語に関しての良い学びの場となっている。また、継承語教育関係者をお呼びして講演と質疑応答も行われている。

2.7 欧州継承日本語教育機関調査・情報公開

サイト（継承日本語ネットワーク：<https://keishogo.eaje.eu/ja>）を通じて、欧州各地の継承日本語教育機関の情報を収集し、データベース化している。このデータベースはクラウド上に保存され、検索システムを通じて AJE のサイトからアクセス可能となっている。

2.8 他機関との連携

AJE 継承語 SIG メンバーの中には、AJE 継承語 SIG の活動だけではなく、「母語・継承語・バイリンガル教育（MHB）学会」や「バイリンガル・マルチリンガル子どもネット（BMCN）」などの機関においても継承日本語教育に関する活動をしている者がある。今後も、それぞれの機関相互の連携及び協力により継承日本語に関するより良い活動が行われることが望まれる。

3 今後の展望

AJE 継承語 SIG は、2024 年度（2024 年 8 月～2025 年 7 月末）に以下の項目を計画中である。

- メーリングリストおよびサイトによる情報共有活動
メーリングリストだけではなく、ウェブサイトからも各機関が情報を発信できるようにする。サイトで検索できる欧州継承語教育機関を更に充実させる。機関データベースを更に充実させるために、記述の方向性について明示する。
- 継承日本語教育に関連する専門家を招いた講演や、ワークショップの実施。（2025 年 3 月末までに実施予定）
- 欧州継承日本語教育活性化プロジェクト
欧州各国における継承日本語教育の実態を把握し、日本とつながりのある子どもたちへの教育支援の指針を打ち出すための基礎データが不十分な現状を受け、AJE 継承語 SIG は、国際交流基金の支援のもと、多言語版のデジタル冊子を作成している。その内容は、SIG での調査結果の報告、継承日本語教育に関わる理念を論じる論考、欧州各地域における継承日本語教育現場からの実践レポートなどである。本冊子の作成・公開を通じて、日本とつながりのある子どもたちへの教育支援および教育現場の活性化に向けた様々な提案を行うことができるのではないかと期待している。
- LSA 勉強会の継続（毎週金曜日）
- 他の継承語関係組織（MHB, BMCN 等）との協力
- 継承日本語教育に関する広報の強化

AJE 継承語 SIG メンバーは、過去 1 年間、欧州における AJE 継承語 SIG の活動だけではなく、MHB や BMCN などの機関をはじめ、現地でのネットワーク活動など、それぞれ継承語に関する様々な活動を行ってきた。このようなメ

ンバーの経験と実績を生かして、欧州における継承日本語教育のより良い進展に貢献する活動を行っていきたいと考えている。

継承日本語教育は、さまざまな問題や課題をかかえており、私共は今後も欧州のそして世界中の日本をルーツとする子どもたちの幸せを願って活動していく所存です。